

HERBERT JHRERING

ここまでいろんな面からパントマイムというものを見てきました。そして私の希望どおり、なかなかおもしろい発見がありました。が、ひとつ忘れていたのが、マリオネットとパントマイムを比較すること、ないしは、マリオネットと反対のものを見つけだすということです。ハインリッヒ・フォン・クライストがマリオネットについて書いた有名な著作をご存じでしょうね。

MARCEL MARCEAU

ええ、その話になりますと、マイムと人形劇の区別をもっとはっきりさせたいくなります。両方とも戯画化という点で人間を様式化しています。だから一目見てリアリズムからは離れているということです。これは一致点です。ほかの点を比べると、ちがいが出てきます。つまり、黙劇のなかで、ゴードン・クレイグが主張した超人形(Uber-Marionette)の思想を実現しようとしてみることです。すなわち、超俳優の思想、俳優は様式化によって日常的な喜劇の人物を高めることができるのだという思想ですね。マイムの芸術は、マリオネットとは逆に、技巧をかくすことに成立のゆえんがあるのです。マリオネットは技巧を見せることで創意を、詩情をだします。マリオネットはそういう疎外のはてに独自の詩をもつもので、黙劇のもつ詩とはテクニカルな手段がちがっています。黙劇は詩をわがものにします。

P.96-97 「パントマイム芸術」 1971年第1刷発行 てすびす双書63 未来社
(原書1956年 Herbert Jhering・Marcel Marceau

"Die Weltkunst der Pantomime" Aufbau-Verlag Berlin)

